

TO マニュアルハンドブック（2024 年度版）の主な変更点

2024 年 4 月 JBA TO 委員会

第 4 章 スコアラー2（審判への伝達）

- ① タイムアウト・交代の認められる時機をまとめた図表を改良〔p15〕
- ② 以下のことを付記
 - ✓ ハーフタイム中は、審判やスコアラーに知らせることなく交代できること〔p14〕
 - ✓ ショット成功後にタイムアウト・交代の認められる時機の終わり〔p14〕
 - ✓ 前半 2 回目、後半 3 回目のタイムアウトを審判を通じてベンチに伝えること〔p16〕
- ③ プレーヤー兼ヘッドコーチの扱い（ファウルの種類とコーチ資格の関係）を新たに記載（2024 新規則）〔p17〕

第 5 章 アシスタントスコアラー

- ① チームファウル数表示と個人ファウル数表示のタイミングを明記。〔p20〕
- ② ショット時にファウルのあったときは、審判のカウントのジェスチャーを確認してスコアボードに加点することを付記〔p21〕

第 6 章 タイマー

- ① ゲームクロックのスタート／ストップの図表を全面改良。特に、スタートの時の 2 段階の動作を強調〔p22〕
- ② タイマーのミス以外で、ゲームクロックを修正する 3 つのケースを整理して記載〔p23〕
- ③ 「ここがポイント！（残り時間のコール）」を新たに記載〔p23〕

第 7 章 ショットクロックオペレーター

- ① ショットクロックのスタート／ストップの図表を全面改良〔p25〕
- ② 新たに 24 秒にリセットするケース「ショットクロックが動いているときに新たなコントロールが始まる場合」に、「スローインされたボールを防御側プレーヤーが直接キャッチする場合も含む」を付記〔p26〕（p30 のケース I にも付記）
- ③ ショットクロックのインナークロックと表示の関係の説明を新たに記載〔p27〕
- ④ 【最後の 2 分】のバックコートでのタイムアウト時のショットクロックの表示方法を新たに記載
- ⑤ 各 Q、OT の終了間際のショットクロックの表示を消す時機の区切りを、「24 秒～15 秒」「14 秒以下」から「24 秒未満～14 秒」「14 秒未満」に修正〔p30〕

第 8 章 コミュニケーション

- ① スコアラー系の心構えの文章を改良。特に「常に記録と表示が一致」を強調。〔p31〕
- ② タイマー系の心構えに、「2 人で 2 つのクロックを管理するという心構えをもつ。」を追加〔p31〕
- ③ 得点の際のコミュニケーションに、バスケットカウントのときと、フリースロー時に交代やタイムアウトの請求があったときの説明を追加〔p32〕
- ④ 得点、ファウル、タイムアウト、交代の際のコミュニケーションで、不要な声出しを抑制することを記載〔p32, p33, p34 の「ここがポイント！」, p35 の表中「スコアラーが気がついていなければ」〕
- ⑤ 「ここがポイント！（審判のレポート中にタイマーがすべきこと）」を新たに記載〔p37〕
- ⑥ ショットクロック非表示の時もショットクロックオペレーターは、ゲームクロックのスタート／ストップのコールをすることを追加〔p39〕
- ⑦ タイマーの 30、24、14 秒のコールの前に、カウントダウンしてもよいことを追加〔p39〕

補章

- ① 従来、「補章 オフィシャルタイムアウトと IRS、HCC」として、トップリーグ対応のことのみ記載していたが、これまで別資料だったスコアボードの設置方法も併せて記載し、「補章（タイトルなし）」として、セクション（節）を再構成した。
 - ② タイムアウトが始まった後に HCC が請求されたときの扱いを変更した（2024 新ルール）〔p44〕
- ※ 上記以外に、用語・文章表現を改良した箇所が多数ある。特に、「フィールドゴール」は「ゴール」にあらため、随所に「ゴールとは、ゲームクロックが動いていて、ボールがライブの状態でのショットのゴールを指す。」という説明を付加している。